

■小中一貫教育の推進

本市では、平成21年度から文部科学省の「教育課程特例校」の承認を受け、全中学校区において、小中一貫教育を行っています。今年度は「施設二体型」小中一貫校である「東郷学園義務教育学校」を開校しました。

小中一貫教育には次のような狙いがあります。

- ・子どもたちにとって
小学生は、中学生に憧れをもち、中学校生活への意欲を高める。
- ・中学生は、小学生への優しさや思いやりを持ち、リーダーシップ力を高め、自分への自信を持たせる。
- ・教師にとって
相互に協力し学び合うことで、自らの教育観をより豊かにし、指導力の向上を図る。

【児童生徒間の交流活動】

中学校区ごとに小学生同士の間合同授業や小学生と中学生の交流活動を意図的・計画的に取り組んでいます。



■ICT活用およびプログラミング教育の推進

【情報活用能力の向上に向けて】

本市全ての学校におけるパソコン室のノート型パソコンをタブレット型パソコンに整備することで、子どもの情報活用能力を高めることができるようにしています。また、授業では、学習効果を高めるために、テレビ会議システムや学習に役立つコンテンツ集（ジーストリーム）を取り入れるなど、ICTの整備や改善を図っています。



【プログラミングによる論理的思考学習】

令和2年度から小学校においてプログラミング教育が導入されます。これは、子どもがプログラミングを体験しながら、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身に付けるための学習活動です。

本市では、プログラミングの楽しさや面白さを感じてもらうために、薩摩川内市企業連携協議会と連携し、自分でロボットを組み立てたり、そのロボットをプログラミングし、自由に動かしたりする実践的な体験をする機会を提供する事業を行っています。

本市の特色ある取り組み

本市は、「ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる薩摩川内のひとづくり」を目標に、「ふるさと意識」を高めつつ、心身ともに健康で、確かな学力と豊かな心を身に付けた子どもの育成に努め、未来をたくましく生きる力を育む教育を推進しています。

■甌アイランドウォッチング

本土地域の小学4年生が、甌島を訪れ、美しい自然や伝統文化に触れる活動を行っています。甌島を訪問することで「甌島もわがふるさと」というふるさと観を育んでいます。



【教師間の授業交流】

小学校の学習内容を想起させるために小学校教員が中学校の授業に入ったり、教科の専門性を生かして中学校教員が小学校の授業に入ったといった教師間の交流を行っています。

■薩摩川内元気塾

卒業生を含め県内外で活躍するさまざまな方々による講演会を聴いたり、実技指導を受けたりすることで子どもたちは、自分の将来を見つめ、夢や希望を膨らませる良い機会になっています。

■小学校綱引競技大会

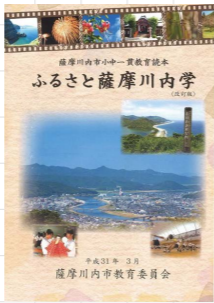
市内の6年生全児童が、一堂に会し、綱引競技を通して、粘り強い体力や気力を培うとともに、友達同士の絆を深めています。



■学校フッ化物洗口

市内全ての小・中・義務教育学校で、フッ化物洗口を実施し、むし歯予防に努めています。フッ化物洗口とは、フッ化物洗口液を使って、1週間に1回30秒間ブクブクうがいをするものです。1人当たりのむし歯の本数が、年々少しずつ減少しています。

■ふるさと・コミュニケーション科



「ふるさと・コミュニケーション科」では、ふるさとの自然や歴史、文化、人々の営みを横断的・総合的に学ぶことを通して、ふるさとを知り、ふるさとを愛する心を養います。本市では、「ふるさと薩摩川内学」という小中一貫教育読本を作成・活用しています。

子どもたちの自己肯定感を高めるために

学校や家庭、地域のそれぞれの場で子どもががんばりを認め、努力したことを具体的に褒めることを通して、自分の良さに気付き、自信を持って意欲的に取り組む子どもを育てていきましょう。

お互いを大切にできる子どもへ

自己肯定感の高い子どもは他人を尊重しコミュニケーション能力が高く、学力も高い傾向にあるといわれます。さらに、自分と相手を比較することが少なくプラス思考になれるため、いじめ

地域

ボランティア活動やいろいろな世代の方と交流をさせましょう。子どもたちは、それぞれの人の優しさや良さ、多様な考え方などを学ぶことができます。

家庭

家事を分担し、お手伝いなど責任を持たせましょう。子どもたちは、家族の一員としての自覚や自分が必要とされていることへの自己有用感を育むことができます。

学校

解けなかった問題が解けるようになるまで、何回もチャレンジする「100点チャレンジ」の取り組みを行っています。そうすることで、子どもたちに「分かった」「できた」という自信や、「自分もやればできる」という自己肯定感を育むことができます。

や不登校につながりにくい効果もあります。本市では、子どもたちが自分自身の良さに気付くことのできる教育を進め、安心して楽しく学校生活を送れるように、次のような取り組みも行っていきます。

●いじめのない学校づくりの日

毎月1日を「薩摩川内いじめのない学校づくりの日」と定め、全ての子どもに「いじめアンケート」を実施しています。気になる子どもがいれば速やかに聞き取りや教育相談を行い解決を図っています。

●心の教室相談員やSSW（スクールソーシャルワーカー）の配置や適応指導教室（スマイルルーム）の開設

不登校の子どもや保護者に対し、日常的に親身になって心のケアができるようスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフを配置したり、スマイルルームを開設したりしています。

いじめや不登校の要因を1件でも多く発見し、一人一人の教職員が、自分の学校、担当する学級でもいじめが発生し得るという危機意識を持ち、未然防止に努めていきます。

今後とも行政と学校、家庭、地域社会がしっかりと連携し、本市の子どもたちの健全育成に取り組んでいきます。